

ロードマップの修正案

ロードマップページ	意見概要	意見に対する考え方(修正案等)	資料2 該当 ページ	区分
1 23	<p>【市民主体のコミュニティ運営が確立されたまち】</p> <p>『特に、本市の特徴である市内の各地域の固有の特色を市の魅力向上に結びつけるためには、地域の実情に応じたきめ細かなまちづくりを進めることが重要です。』の箇所の意味が分からないという意見</p>	指摘のあった「特徴」、「特色」といった表現の見直し及び、全体の表現についても整合が取れるように見直し	17	市民意見
2 2	<p>【吹田市ロードマップの説明文】</p> <p>吹田市総合計画基本計画(素案)には、「まえがき」はないのでしょうか。 「コンセプトとしてわかりやすい計画を目指している」とか「ロードマップの位置付け」等、説明されていたことを書いて、読ませる努力も必要ではないかと思えます。</p>	「まえがき」部分を修正	18	審議会意見
3 3	ベースが二つありますので、七つのルートと二つのベースの総括表のようなものが最初にあれば、もっとわかりやすいのではないかと思います。	「吹田2020ロードマップ概観図」を新たに作成し、巻頭に記載	21	
4 23	各ルートの成り立ちについて、全体の構成がわかる図が必要ではないかと思えます。	全体の構成が分かる図を修正	19	
5 32	<p>【第5章 将来像の実現に向けての前文】</p> <p>ベース、ベースについて、「行政はこのようにする」「市民はこのようにする」という話になっていますが、実はそれが一体となって新しい公共がどのように構築できるのかという話だと思えます。 その新しい公共の概念は、ベースとベースが組み合わせられて実現していくはずですが、それがどこにも書かれていないし、別々になってしまっています。</p>	<p>ベース、ベースに関する前文を新たに作成【資料3】</p> <p>【議題 3 基本姿勢(ベース・)についてで議論】</p>	資料3 参照	

ロードマップの修正案 (No.1)

意見の概要

ロードマップ P23

市民主体のコミュニティ運営が確立されたまち

『特に、本市の特徴である市内の各地域の固有の特色を市の魅力向上に結びつけるためには、地域の実情に応じたきめ細かなまちづくりを進めることが重要です。』の箇所の意味が分からないという意見

【修正前】

第1章 まちの将来像

まちの将来像は、市民福祉の向上に欠かすことのできない様々な政策を牽引する役割を果たします。

この役割を果たすため、まちの将来像を設定するにあたり、次の3つのまちづくりの視点を取り入れます。

「住」「働」「楽」が織り成す都市魅力を発信し、人をひきつけるまち

本市は、「住みやすさ」「産業活動にとっての魅力」「楽しめる都市空間」をバランスよく内包する都市です。それぞれの都市機能は高い集積があり、単独でも大きな都市魅力となっていますが、複数の都市機能が近接、融合することで、職住近接、職遊融合、住遊近在など相乗的に魅力が高まる可能性があります。

この可能性を引き出すには、柔軟な「発想力」や豊かな「創造力」、粘り強く取り組む「推進力」などが必要であり、これらはどれも、人を介して引き出すことができるものです。

このため、市民、企業、NPO、大学、行政など様々なまちづくりの主体が、相互の関係性を深め、それぞれの得意分野を生かしながら、協力、連携することにより、地域資源をうまくつなぎあわせながら、新たな都市魅力の創造を図ります。さらに、この都市魅力を内外に発信し、人をひきつける元気のあるまちをめざします。

市民主体のコミュニティ運営が確立されたまち

本市は、地域主権という変革期の政策主体として、市民生活を豊かにする政策の質的向上を図ることが求められています。このため、市民が日々の生活で感じたことを如何に政策に組み入れていくかが重要となっています。

特に、本市の特徴である市内の各地域の固有の特色を市の魅力向上に結びつけるためには、地域の実情に応じたきめ細かなまちづくりを進めることが重要です。このため、市民が地域のまちづくりに主体的に関わり、自ら考え行動する自立した地域運営ができる仕組みを市民と行政の協働で構築し、その運営を市が支援することで、それぞれの地域魅力を高め、活気あふれる地域とすることをめざします。

【修正後】

第 1 章 まちの将来像

まちの将来像は、市民福祉の向上に欠かすことのできない様々な政策を牽引する役割を果たします。

この役割を果たすため、まちの将来像を設定するにあたり、次の3つのまちづくりの視点を取り入れます。

「住」「働」「楽」が織り成す都市魅力を発信し、人をひきつけるまち

本市は、「住みやすさ」「産業活動にとっての魅力」「楽しめる都市空間」をバランスよく内包する都市です。それぞれの都市機能は高い集積があり、単独でも大きな都市魅力となっていますが、複数の都市機能が近接、融合することで、職住近接、職遊融合、住遊近在など相乗的に魅力が高まる可能性があります。

この可能性を引き出すには、柔軟な「発想力」や豊かな「創造力」、粘り強く取り組む「推進力」などが必要であり、これらはどれも、人を介して引き出すことができるものです。

このため、市民、企業、NPO、大学、行政など様々なまちづくりの主体が、相互の関係性を深め、それぞれの得意分野を生かしながら、協力、連携することにより、地域資源をうまくつなぎあわせながら、新たな都市魅力の創造を図ります。さらに、この都市魅力を内外に発信し、人をひきつける元気のあるまちをめざします。

市民主体のコミュニティ運営が確立されたまち

分権型社会において、市民生活を豊かにするためには、市民が日々の生活で感じたことをいかにまちづくりに反映させるかが課題となっています。

歴史や文化など地域固有の特色を生かし、市の魅力向上に結びつけるために、地域に愛着や関心を持ち、その地域ならではのきめ細かなまちづくりを進めることが重要となります。

このため、市民が地域のまちづくりに主体的に関わり、自ら考え行動する自立した地域運営ができる仕組みを市民と行政の協働で構築し、その運営を市が支援することで、それぞれの地域魅力を高め、活気あふれる地域とすることをめざします。

ロードマップの修正案 (No.2)

意見の概要

ロードマップP2 吹田市ロードマップの説明文

吹田市総合計画基本計画(素案)には、「まえがき」はないのでしょうか。「コンセプトとしてわかりやすい計画を目指している」とか「ロードマップの位置付け」等、説明されていたことを書いて、読ませる努力も必要ではないかと思います。

【修正前】

吹田2020ロードマップとは

ロードマップとは総合計画の目標に向けた道筋を示すものです。

ロードマップには「何を達成する（目標）」「いつまでに達成する（期限）」「どのように達成する（手段）」などを明らかにしています。

吹田市総合計画は2020年の将来像に向けたまちづくりのロードマップです。

【修正後】

吹田市総合計画を、みんなが共有し活用できる親しみやすい計画とするために、『吹田 2020 ロードマップ』と称しています。

吹田2020ロードマップとは

ロードマップは『道路地図』や『行程表』という意味があります。

吹田 2020 ロードマップは、2020年度の吹田市の将来像に向けた「地図」となり「行程表」となります。

この将来像の実現に向け、「何を達成する（目標）」「いつまでに達成する（期限）」
「どのように達成する（手段）」などを明らかにしています。

吹田2020ロードマップ策定のコンセプト

分かりやすい計画

- ◇ 多様なまちづくりの主体と共有できる分かりやすい計画
- ◇ 市民、事業者、行政等の役割が分かる計画
- ◇ 環境や都市計画などの分野別計画との関係が分かりやすい計画

戦略性のある計画

- ◇ まちづくりにおける戦略性が明確な計画
- ◇ 重点化する取組などがわかるメリハリのある計画

ロードマップの修正案 (No.3)

意見の概要

ロードマップ P3 目次の次

ベースが二つありますので、七つのルートと二つのベースの総括表のようなものが最初があれば、もっとわかりやすいのではないかと思います。

吹田2020ロードマップ《SUITA 2020 Roadmap》の概観

吹田市内外の条件

吹田市の特徴

- ①交通の利便性
- ②充実した文化・学術・研究環境
- ③暮らしを支える生活関連施設
- ④複合都市
- ⑤地域ごとに異なる特色

市民意識

- ①生活を支える社会保障
- ②青少年の育成
- ③地球温暖化防止対策
- ④雇用・就労の促進
- ⑤雇用の安定・勤労者福祉
- ⑥消費者の利益と安全確保
- ⑦歩行者にとっての道路の安全性
- ⑧防災
- ⑨防犯
- ⑩交通安全
- ⑪環境汚染防止対策

社会経済状況の変化

- ①安心安全の意識の高まり
- ②循環型社会への移行
(地球環境問題の深刻化)
- ③社会の多様性の尊重
(ライフスタイルの変化)
- ④超高齢社会の到来
(人口減少と少子高齢化)
- ⑤地方分権の進展と新たな公の台頭
- ⑥高度情報化社会の進展
- ⑦経済及び雇用環境の悪化

吹田市の主要課題

- (1)暮らしの支えとなる福祉の充実と安全な環境づくり
- (2)次代を担う子どもが成長する環境づくり
- (3)豊かな環境の保全と創造
- (4)産業と地域経済の活性化
- (5)心のゆとりと生きがいづくり
- (6)市民力・地域力の向上
- (7)財政の健全化と行政の効率化

まちの将来像

「住」「働」「楽」が織り成す都市魅力を発信し、人をひきつけるまち
「住みやすさ」「産業活動」についての魅力「楽しめる都市空間」をバランスよく内包するまちの特色を生かし、人をひきつける元気のあるまちをめざします。

市民主体のコミュニティ運営が確立されたまち
市内の各地域の固有の特色を市の魅力向上に結びつけるため、市民が地域のまちづくりに主体的に関わり、活気あふれる地域とすることをめざします。

まちの未来を拓く人を育むまち
人と人が関わり、育ち育てられる環境づくりとして、「安心して、子どもを生ま育てる環境」、「子どもが自立するまでの成長を応援する環境」、「社会とつながり自己実現ができる環境」など生涯をとらえて学び・育む環境が備わったまちをめざします。

「ひと」がテーマ

人・まち・元気創造都市すいた

吹田市内外の条件から導き出されるまちの将来像

【ルート(基本方向)】
将来像を実現するための基本方向を道筋に例えルートと称して示します。

【ベース(基本姿勢)】
計画を着実に進めるための基本姿勢をベースと称して示します。

将来像を実現するための基本方向・基本姿勢とまちのイメージ

協働の取組・役割分担によるまちのイメージの実現

R-I	一人ひとりの人権とさまざまな文化を認め合う平和なまち	平和 人権 男女平等 文化共生 内外交流
R-II	誰もが住み慣れた地域で支え合い健康で安心して暮らせる福祉のまち	高齢者福祉 障がい者福祉 地域福祉 健康
R-III	ともにつながり未来を拓く人づくりを進めるまち	子育て 療育等 教育 青少年 生涯学習 生涯スポーツ
R-IV	健康で豊かな環境を守り引き継ぐまち	エネルギー 生活環境
R-V	誰もが将来にわたって快適に暮らせるまち	都市機能 住宅 みどり 公共交通 道路 水道 下水道
R-VI	支えあいと備えて安全に暮らせるまち	防災 防犯 消防
R-VII	人が集い、企業を育む、都市魅力あふれるまち	産業 就労 消費生活

行政によるまちのイメージの実現

【まちのイメージ(施策)】
基本方向にもとづく施策をまちのイメージと称して示します。

吹田2020ロードマップの特徴

- 取組の連携による効果化**
まちのイメージに向けた取組は複数のルート(基本方針)と関わりを持つことから、連携することにより成果をより高めます。
- 有効性見える化(有効指標)**
まちのイメージが各種取組により、どの程度達成されたかを見えるようにして、取組を改善するため指標を設け、チェックします。
- 協働と役割分担**
市民・行政が一緒に取り組むこと、市民・行政がそれぞれの得意なことを生かして役割分担することを明らかにし、将来像を実現します。

将来像実現に向けた取組の内容

- 財政基盤
- 地域自治 B1
- 市民が活躍できるまちづくりのための行政経営を確立します
- 市民公益活動
- まちづくりへの参加・参画
- B2 持続可能なまちづくりのための行政維持保全
- 人材育成
- インフラ維持保全
- サービス向上

ロードマップの修正案 (No.4)

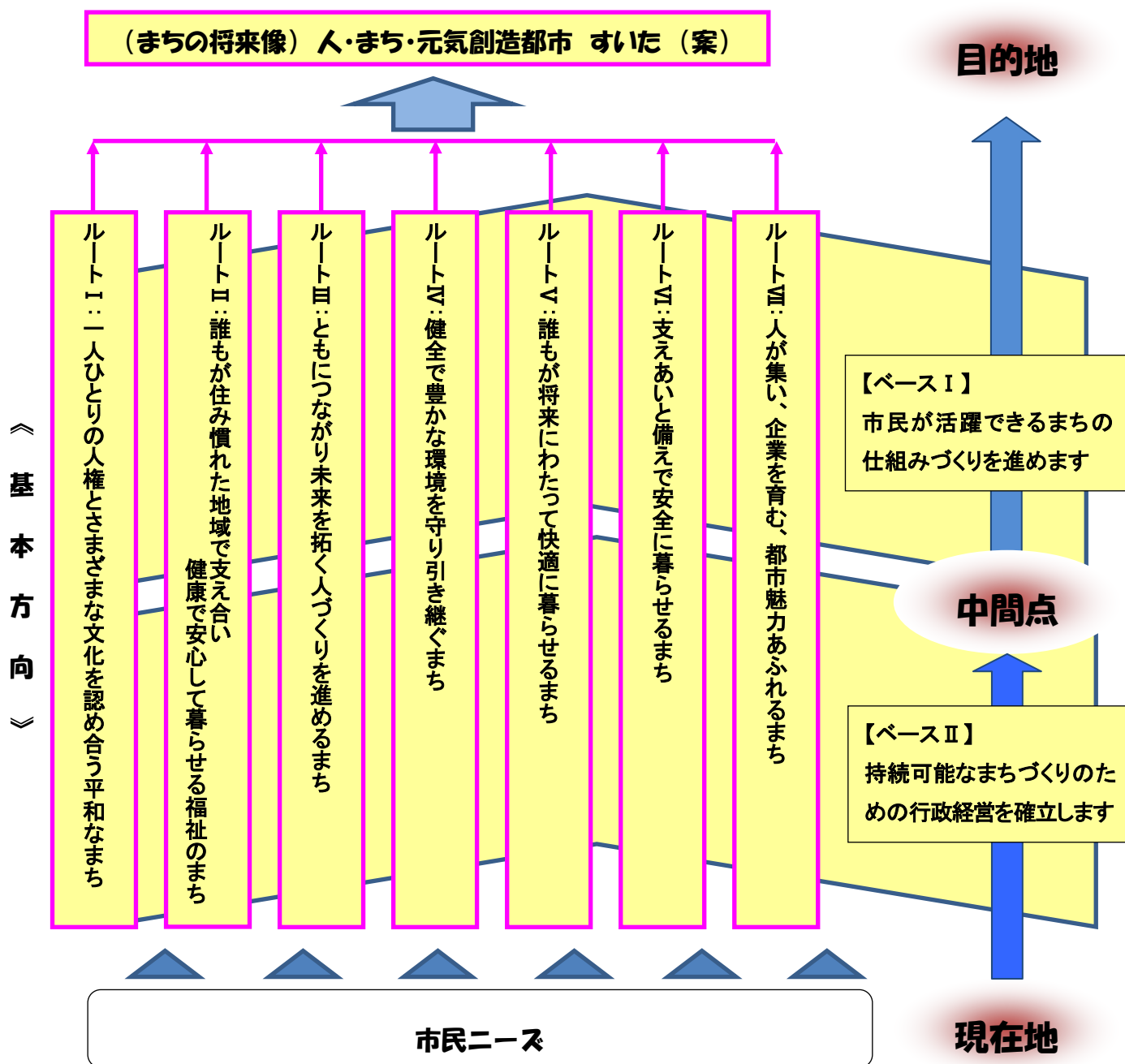
意見の概要

ロードマップ P23

全体構成図

各ルートの成り立ちについて、全体の構成がわかる図が必要ではないかと思ます。

【修正前】



【修正後】

